

図書委員の生徒が選ぶ、おすすめの本の紹介

図書委員が自信を持って紹介するおすすめの 1 冊！読んでみてね！



タイトル : 「嫌われる勇氣」

著 者 : 岸見一郎

この本は、心理学者アドラーの考え方をもとに、自分らしく生きるためのヒントを教えてくれる本です。他人の目を気にしすぎてしまう人や、自分の人生をどう生きるかを考えるきっかけになります。対話形式で読みやすく、心が軽くなる一冊です。自分を変えたいと思っている人や、自分の人生を見つめ直したい人にぜひ読んでほしい本です。
(機械科 2 年)

タイトル : 「カラフル」

著 者 : 森絵都

この本は、死後の世界で「ぼく」がもう一度現世へ戻り、見過ごしていた家族や友人の思い、自分自身の弱さに向き合いながら、生きる意味を再発見する物語です。優しい筆致とユーモアが心に沁み、高校生が抱える悩みや切なさにもそっと寄り添います。生きることの素晴らしさや、友情の大切さを感じたい人にぴったりの本です。
(機械科 2 年)

タイトル : 「よるのばけもの」

著 者 : 住野よる

この作品は、どこにでもあるような中学校が舞台です。主人公である安達は、ある日から夜になると 8 つ目で、6 つ足、4 つの尾があるバケモノに変身してしまうようになってしまったというのがこの物語の導入です。この作品の面白い所は、幻想と現実、昼と夜が交わり独特な雰囲気を生み出している所にもあると思います。「いじめ」という現実にあることを題材にしつつ、「夜になるとバケモノになる」というフィクションをかけ合わせることで今までにない驚きを与えてくれるでしょう。本当の自分とは何なのかを考えさせられる一冊です。(電気情報システム系 1 年 B 組)

タイトル : 「むらさきのスカートの女」

著 者 : 今村夏子

この作品は、主人公である「わたし」が近所に住む「むらさきのスカートの女」と交流を深めていこうとする物語です。この作品の面白い所は、日常の中に潜む異常が丁寧に描かれている所や主人公の正体を推理出来る所にもあると思います。主人公であり語り手の「わたし」と、謎めいた「むらさきのスカートの女」の繊細な交流が、日常の中の哀愁や温もりを映し出し、私達読者に独特な体験を与えるでしょう。小説の推理や考察が好きな人におすすめの一冊です。(電気情報システム系 1 年 B 組)

暑い日々が続いていますが、夏バテなどはしていませんか。

明日から待ちに待った夏休みです。みなさんは夏休みをどのように過ごす予定ですか。

1・2 年生は課題の学習や部活動に、また、3 年生は就職・進学 of 準備で忙しい時間を過ごされることでしょう。しかし、いつもより自由な時間も多くなるのではないのでしょうか。

そのような夏休みに今回紹介した本の中から気になる一冊を読んでみてはいかがでしょうか。

本を通して、新たな発見や感動に出会えるかもしれません。

タイトル : 「戦う勇氣、退く勇氣」

著 者 : フランチェスコ・アルベローニ

この本は自分や他人の問題、厳しい社会による逆境をプラスに変える方法など、生きていく上で参考になることが書かれていたり、人の気持ちや違う視点が見えてきたり、自分はどうあるべきかなどを気づかせてくれたり、読み進めていくと自信が持て、勇氣が出てくる本です。「人の話に耳を傾けよ」という話は、人の話を聞かないと大切なことを見落としてしまうという話で、よく話を聞くということは大切なことだと改めて認識させてくれる話です。このように、様々な話が分かりやすい例えで書かれていたり、短く話を区切られていたりして、小説が苦手な人にもおすすめです。(機械科 2 年)

タイトル : 「騙される人 騙されない人」

著 者 : 安斎育郎

この本は、不思議現象や人の心などを科学的に考察していて、その現象はどのようにして起きているのか、人はどのようにして騙されるのかなどが書かれています。この本を読むと、騙されないようにどのようにすればよいのか、なぜ人に先入観を与えようと思ひ込みが強くなるのかなど、また違った考え方ができて生活する中で楽しめる本です。また、騙す人との上手な付き合い方、簡単にできるマジックなど図付きで書かれており、とても面白い本となっています。(機械科 2 年)

タイトル : 「人間失格」

著 者 : 太宰治

主人公の大庭葉蔵はいつも道下を演じていた。「自分」は人とは違う感覚を持っており、それに対して混乱し発狂しそうになる。それゆえに人と接する時は、「明るい自分」を演じる。そんな葉蔵が人生を通して、破滅の道を辿る。酒や薬、女性関係に翻弄され、最後、葉蔵は「人間失格」として、社会から隔絶された存在となる。人間の弱さや脆さ、社会の厳しさが分かる話です。この「人間失格」の葉蔵は太宰治自身がモデルと言われています。この本を読むだけでも作者がどれだけつらく、苦しい人生を歩んできたかが分かる一冊です。(機械システム系 1 年 C 組)

タイトル : 「車輪の下」

著 者 : ヘルマン・ヘッセ

小さいころから天才と言われていたハンス。父と周囲の大人はそんなハンスに期待を寄せ、神学校を受験させた。見事に合格し、入学した。その学校でハイルナーという親友ができてから、自分の生き方を考えさせられる。ハイルナーが退学した後、ハンスは神経衰弱と診断され、神学校を去ることになる。戻った故郷では周囲から白い目で見られ、ハンスが恋した少女エンマとの別れで苦しい日々が続く。最後は、酔い潰れ、川に落ちて死んでしまう。

多感で傷つきやすいハンスの心理描写が書かれています。(機械システム系 1 年 C 組)